

# 部活動などの活躍

## 《英語科》

共栄学園レシテーションコンテスト

**第2位** ○○○○さん(3-1)、○○○○くん(3-2)

英語区連合スピーチコンテスト

**優勝** ○○○○さん(1-2)

**出場** ○○○○くん(3-3)、○○○○くん(2-2)

## 《実用数学技能検定》

**準2級** ○○○○さん(3-3)

## 《実用英語技能検定》

**準2級** ○○○○くん(3-1)、○○○○くん(3-2)、  
○○○○くん(3-2)、○○○○さん(3-3)、  
○○○○くん(3-4)、○○○○さん(3-4)

## 《中学生科学コンテスト》

**実技Ⅱ部門優秀賞** ○○○○くん(2-1)、○○○○くん(2-2)、  
○○○○くん(2-3)

## 《サイエンスキャッスル研究費》

**2019 THK賞** ○○○○くん(2-1)

“プラスチックゴミ回収のための水中ロボット開発”がTHK賞の  
支援対象として認定されました。



## 南千住マイスターのコーナー

千住宿には寺社の他にも、本陣・脇本陣・旅籠・絵馬屋・蕎麦屋などが軒を連ねていました。風のある午後、街道沿いにある蕎麦屋のつゆの香が金蔵寺までとどいてきたといいます。このお寺に祀られているのは閻魔様です。閻魔様は「一度でいいからあの旨そうな汁の蕎麦を食べてみたい」と思うようになりまして。我慢できなくなった閻魔様は、とうとう若い女に化けて蕎麦屋へ出かけたのです。

そば屋の店主と客は何か変だと気づきます。女はやたらと千住葱や唐辛子をかけているのです。「あんなに唐辛子をぶっかけりゃ、口の中が地獄みたいに熱くなるぜ！」と呆れますが、女は一気に食べ終わって出て行ってしまったのです。

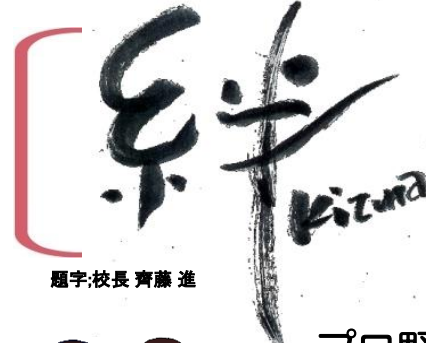
それから幾度となくそば屋に来てはたっぷりの千住葱と唐辛子をかけて食べます。この女はすぐ噂になり蕎麦屋は物見高い客たちでいっぱいになりました。客の一人が「何処の女かつきとめろよ」と店主に言いました。店主がその女のあとをつけていくと、女は金蔵寺の閻魔堂の前で立ち止まりました。と、そのとき、横顔がチラリと見えました。何とその口は目元まで裂け、顔は唐辛子より真っ赤だったのです。「エ、エンマ様だ！おれを迎えに来たんだ！」店主は店に帰って、泣きながら寝込んでしまいました。そこへさっきの客がやって来て「お迎えを断るにや、蕎麦をお供えするかねえぞ」といわれ「なるほど」と思った店主は、翌日から閻魔堂に蕎麦をお供えするようになりまして。すると閻魔様も安堵したのか店に来なくなりました。

そんな話が宿場町の遊女たちに伝わり、いつのまにか彼女たちも閻魔堂に蕎麦を供えるようになったといわれています。金蔵寺は今も千住大橋を渡った北千住側にあります。

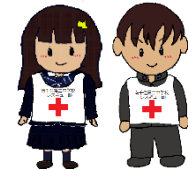


## すみだ川妖怪絵巻 その7 『そば閻魔(えんま)』

協力：  
NPO法人  
千住すみだ川



題字:校長 齊藤 進



ナンちゃん・ニーくん



学校だより  
令和元年12月  
第101号  
荒川区立南千住第二中学校

## プロ野球プレミア12世界大会優勝投手 山崎康晃選手 (横浜DeNAベイスターズ) を迎えて

校長 齊藤 進

12月14日(土)オリパラ教育の一環として横浜DeNAベイスターズの山崎康晃選手を講師としてお迎えし講演会を行いました。山崎選手は11月に行われたプロ野球プレミア12世界大会での優勝にクローザーとして貢献した日本の守護神と言われている投手です。

山崎選手は荒川区立第六日暮里小学校、尾久八幡中学校の卒業生で私と本校の澤田真樹子先生、宗広優子先生が3年間生活を共にしました。講演会前には元尾久八幡中学校の先生たちが多数駆けつけ抱き合っって喜ぶなど旧交を温めました。



いよいよ講演会の始まりです。ベイスターズのユニフォームに身を固めた齊藤校長と3年生の○○○くんがキャッチボールをしていると、ウグイス嬢(橋本先生)から選手交代を告げられ横浜スタジアム恒例の“ヤスアキジャンプ”で山崎選手が入場するという演出によりアリーナが熱気に包まれてのスタートとなりました。

あきらめずに夢を持ち続けることの大切さを講演の主旨として、南二中のために、手書きのメッセージや写真を入れて自ら作成したパワーポイントを使って説明していただきました。荒川区で育ち様々な方々のお蔭で今の自分があること、挫折を味わい野球を辞めようと思っただけで、困難な時期を乗り越えエースナンバーをもらいお母様が喜んでくれたことなど40分にわたり熱弁をふるって頂きました。



プロ野球プレミア12  
世界大会優勝メダル

生徒からツーシームの投げ方などの質問には自ら生徒にボールを投げてくれました。対戦してすごいと思うバッターは同じ荒川区立第9中学校出身の鈴木誠也選手の名前があげられました。座右の銘が「気づき」「考え」「実行する」には多くの生徒がうなずく姿が見られました。講演会では具体的な目標や夢を色紙に書くことの大切さを強調され、生徒だけではなく私たち大人にとっても深く心に刻まれる素晴らしい講演でした。

当日はあらかじめ本校へサイン入り色紙を数多く用意していた上、なんと優勝のメダルも貸して頂きました。多くの方々にもサインや写真撮影など丁寧に対応していただきました。こうした姿勢は球界一すぐれた人間性であると球団の広報担当で大阪桐蔭高校から千葉ロッテマリーンズで活躍した三島輝史さんがおっしゃっていました。日本プロ野球界で山崎選手が抜群の人気を誇る理由がこうした姿勢にあると思いました。

一般の方々からはファンになりましたという声をたくさんいただきました。この日は山崎選手のお母様も駆けつけてくれました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。最後は来年の東京オリンピックで活躍することを約束してくれました。

皆さんで熱い声援を送りましょう。金メダル目指して頑張ってください！

# 山崎康晃選手講演会

世界ランキング上位12ヶ国のチームが対戦する「WBSCプレミア12」。熾烈な戦いを勝ち抜き、今年決勝に挑んだのは日本と韓国でした。2点リードの9回裏に最終回を託されたのが**DeNAベイスターズの山崎 康晃投手**。投じた7球はすべてツーシームと呼ばれる内角に鋭く刺さる剛速球で、ファンの期待に応え、最終回を3人で締め、胴上げ投手に輝きました。

12月14日(土)の土曜公開授業では、3校時のオリンピック・パラリンピック講演会に、**荒川区出身で日本の守護神、ベイスターズの小さな大魔神と称され、プロ野球界で大活躍する山崎選手をお招きしてお話を伺いました**。全校生徒と多くの保護者や近隣の皆さんが集まり、会場となったアリーナは熱気に包まれました。テーマ曲が流れると、生徒会本部役員の〇〇〇くん(2-1)、〇〇〇〇くん(1-4)が先導して山崎選手が入場。全員総立ちの「ヤ!ス!ア!キ!」ジャンプで山崎選手を迎えました。

「**夢・目標を持つ(夢へのアプローチ)**」と題した講演会では、地元の少年野球チームで活躍し、小学生でプロ野球選手になりたいという夢を持ち、それを実現するまでにいくつもの選択をしたこと。ときに大きな挫折を味わい、何度も夢をあきらめて違う道に進むことも考えたこと。しかし、多くの友人や家族、先生との出会いや掛けられた言葉で努力は必ず報われると信じて、決して腐ったり諦めたりすることなく、野球の練習に励み、亜細亜大学在学中に日米大学野球の日本代表に選ばれ、翌年のドラフト会議で1位指名され、プロ野球チームに入団するまでの歩みを南千住二中のために作ったというパワーポイントを使い、お話しくださいました。画面いっぱい、「**夢に向かってFight! 頑張れ南二中!!**」と手書きのメッセージが映し出されると会場からは感嘆の声と拍手が沸き起こりました。質問コーナーでは、**3年生の〇〇〇〇くん(1組)、〇〇〇〇くん(1組)、〇〇〇〇くん(2組)、〇〇〇〇くん(2組)、〇〇〇〇くん(3組)、2年生の〇〇〇〇くん(2組)、〇〇〇〇くん(2組)、1年生の〇〇〇〇くん(2組)、〇〇〇〇くん(2組)、〇〇〇〇くん(4組)**の10名がステージに上がり、野球の技術や練習法、モチベーションの保ち方などを質問。ときには実際にボールを投げて説明するなどすべての質問に丁寧に答えてくださり、さらに握手もしていただき、質問した生徒たちは大感激でした。最後に**生徒会長の〇〇〇〇さん(2-1)と生徒会役員の〇〇〇〇さん(1-1)**からお礼の言葉と花束が贈られました。**山崎 康晃選手**、お忙しい中たいへん貴重なお話をありがとうございました。



花束贈呈の〇〇さん(左)と 〇〇さん(右)

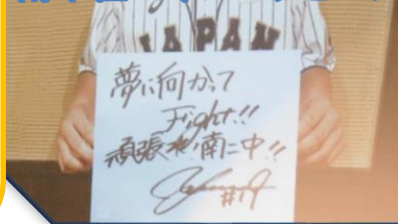
憧れの山崎選手を前に緊張した 面持ちの質問者の皆さん

## 山崎 康晃(やまさき やすあき)選手

東京都荒川区出身のプロ野球選手。亜細亜大学の3年生だった2013年に、日米大学野球選手権大会の日本代表に選出され、抑えの投手としてチームの優勝に貢献し、最優秀投手賞を受賞。2014年のドラフト会議で1位指名され、横浜DeNAベイスターズに入団。入団1年目から37セーブを挙げ、新人最多記録を樹立。2019年WBSCプレミア12では、侍ジャパンの守護神としてチームを優勝に導くなど躍進を続けている。



## 南千住二中へメッセージ



# 杜明パレード

青少年育成委員会の南千住地区委員会では“非行のない明るい街づくり”を目指して、『社会を明るくする運動』を推進しており、毎年7月に街頭や駅前で広報活動を、12月に街頭パレードを行っています。今年のパレードは12月1日(日)に行われ、南千住二中からはレスキュー部と吹奏楽部が参加しました。**レスキュー部の1年生7名、2年生21名はボランティアとして、会場やパレードの準備や片付け、プラカードを持ってパレードに参加する**などしました。また、吹奏楽部18人は南千住二中の先頭に立ち、南千住二中の校庭をスタートして、**コツ通り、仲通り、荒川一中までのコースを演奏しながら行進**しました。この日演奏した行進曲は、「あらかわ〜そして未来へ」「聖者の行進」「負けないで」の3曲。1か月ほど前から練習を重ね、実際に楽器を持って校舎内を演奏しながら歩く訓練も行ってきました。当日は隊列の**先頭に立ち、パレードをリードし、休むことなく長い道のりを演奏し続けました**。明るく元気なマーチングソングが街に響き、南千住の街がさらに明るく活気にあふれる1日となりました。吹奏楽部の皆さん、レスキュー部の皆さんお疲れさまでした。



## 社会を明るくする運動 街頭パレードの様子

後片付けもレスキュー部が積極的に行いました。



パレードに参加したレスキュー部と吹奏楽部の皆さん

## ～年賀状作り～

12月9日(月)、10日(火)の2日間にわたり、レスキュー部では恒例の年賀状作りを行いました。これは、荒川区社会福祉協議会の依頼を受けて、区の『みまもりネットワーク事業』に登録している一人暮らしの高齢者の方々へ年賀状をお送りする活動に協力して毎年行っています。加えて、南千住二中の『絆ネットワーク』に登録いただいている近隣の皆さまにもお送りしています。12日(木)には、**スーパーレスキュー部が放課後の時間を利用して、合計100通の年賀状を書き上げました**。日頃お世話になっている皆さまへの感謝とご健勝を願う気持ちを一枚一枚に込めて作った力作揃いです。

## 年賀状作成の ボランティアの皆さん



手書きのイラストやスタンプ、メッセージ入りの明るく楽しい年賀状が完成!